

筆山

第42号 / 2007年7月

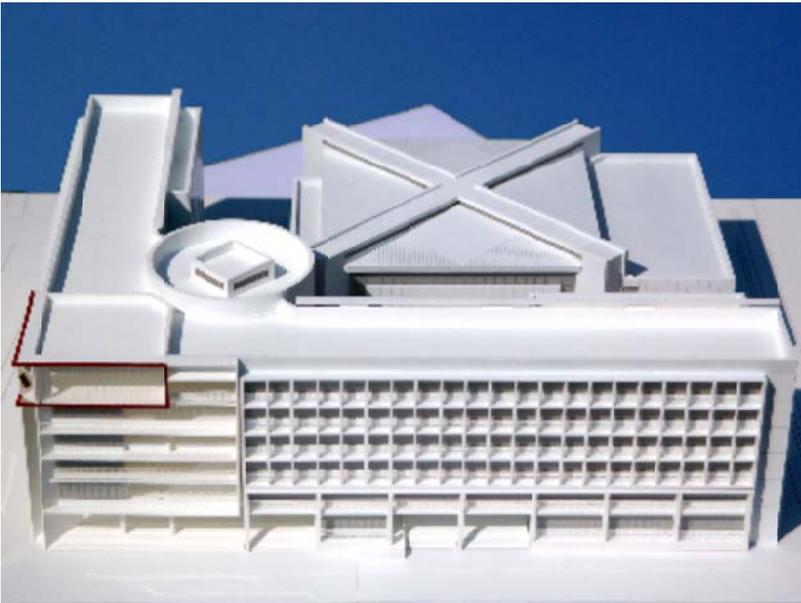
土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)

TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/



土佐中・高等学校新校舎の模型写真（写真提供：安井建築設計事務所）

一つのお願い

関東支部長

泉谷良彦 (29回生)

「四つのお願い聞いてよね」と言う歌がありました
が今日は一つのお願いを致します。

土佐中・高校の創立100年に当る2020年の記念事業として新校舎を建設する事になりました。当然の事ながら新設するには、地震対策や健全な環境、少子化等の問題があります。教育政策としては、過去の伝統を引継ぎながらの高度な文武両道は勿論のこと21世紀に相応しい豊かなコミュニケーション作りと機能的な学校創設が求められます。開校碑文にある「教育振るえば国家栄ゆ」の通り、立派な国際人を育てるようにとの要請が今後強くなってきます。更に父兄や生徒に信頼を得る学校であることが必須であります。

戦後、戦災で荒廃した母校は青空教室も行われたようですが、我々の時は池療養所から古材を貰い受け、先輩諸公の奉仕活動で作りに上げたものでした。天井は無く窓ガラスは障子で隙間だらけ、伊吾の声は筆山に大いに轟いたものと思いますが、それでも寒さや暑さに耐えて勉強に勤しんだものでした。

具体的なことを申し上げると予算総額は40億円、我々卒業生に課せられる寄付額は4億円、その内、関東支部の目標額は3千万円です。個人対象の寄付金額は一口1万円以上となっています。現在支部に登録されている支部員は約3000人ですから一人1万円宛となります。現実はその様に簡単では無いと思いますが、お一人お一人がその立場に於いて良く斟酌し、少なくとも倍額か、5年の分割を利用して一口以上の御寄付をお願い申し上げます。現在かなりの部分を占める学生や新社会人諸君は、(当時の自分を振り返ってみても)余裕が無いことは理解出来ますので分割払いを御検討願います。更に尚、ご家族のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年関東支部総会・大懇親会

平成19年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会及び大懇親会は、6月2日(土)、丸の内三菱ビルのコンファレンススクエアエムプラスにて総会を、場所を移して隣接の丸ビルホールにて大懇親会を行いました。300名余の同窓生が参集し盛大に挙行されました。

母校から池上武雄校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。

今年の記念講演は幸徳正夫氏(37回)の「今が旬! 師友の縁に生かされて」と題する講演でした。学生時代の師友の縁が人生で如何に大きな役割を果たすかということ、たくさん先の先人の言葉を引きながら(それも全部暗記で!)お話されました。同窓生一同熱心に聴講いたしました。

今年7月の回生(27、37、47、57、67、77)の同窓諸君による総会・懇親会の運営がなされました。

大懇親会は料理に注目! 全て、高知から直接取り寄せた



幸徳正夫氏の講演



総会会場

り、会員が徹夜で作った本物の土佐料理ばかりでした。

大懇親会

←宮地同窓会長の挨拶



←37回生宮本さんの音頭で乾杯



↑小夏とみかん



↑鯉のたたき



↑鯖寿司



↑土佐の酒



←今年卒業の82回生の紹介



↑最後は校歌の大斉唱↑



↑7の回生から8の回生への幹事引継ぎ。後は宜しく!

関東支部活動報告

事務局長 二宮潔(49回生)

「関東支部総会・大懇親会」は故郷復帰、温故知新などといったテーマを醸し出しながら、企画・進行の年番回生が年々ますますすつて趣向を凝らした一大イベントと化して参りました。今年(6月2日)の関東支部総会に参加されなかった本部・支部各位におかれては、ぜひ来年こそ関東支部総会にお出掛け下さい。熱烈大歓迎致します。

今回の「関東支部活動報告」は趣向を変えて、事務局長のゴールデンウィーク最終日の日記を掲載し活動報告に替えます。どうぞご一読を。

息子(79回生)と私の

『野球ごっこ』

昨日も神宮通い。いつものように川村 愿さん(28回生)、宮川 洋治さん(33回生)と家内(51回生)の4人でバックネット裏の「特等席」で東京六大学野球の観戦。

第一試合の早大V S 立大第一戦の最終回、早大ピッチの場面にあの社会現象とも言えるハンカチ王子君が、ご両親が見守るなかで見事なリリーフ登板を果たし、佑ちゃんフ

ンを大いに沸かせたあと、4人にとつてお目当ての第二試合、慶大V S 東大第一戦は初回から小刻みに得点を重ねた慶大が6-0ですんなり先ず1勝。7回表でしたでしょう

か、愚息(英太郎・79回生)が代打で登場。この日は、緒戦の立大戦での代打クリンヒットのようなわけには行かず、惜しくも空振りの三振。そのままセカンドの守備について最終回にもう一回、打席に立つチャンスが巡つて来ましたが、またしても空振りの三振。とうとうこの日は、佑ちゃんのように応援の4人を喜ばせることは出来ませんでした。

はや愚息も大学4年生。春季リーグ戦も半分ほど消化し、残すは秋季リーグ戦のみで、彼の現役野球人生は一応の節目を迎えます。愚息本人がどう思っているかは判りませんが、私にとつての、この子との20年間に及ぶ「野球人生」(いや「野球ごっこ」かな?)は、そろそろクライマックスを迎えようとしています。

思い起こすと、ヨチヨチ歩きを始めた頃からプラスチックの野球バットとゴムボールを握らせ、サッカーボールと二者択一の期間を経て、小

学校入学前には軟式ボールでキャッチボールを始め、小学2年生から近所の小学生軟式野球チームに入団。そして中学校3年間は横浜の硬式野球チーム(戸塚リトル・シニア)でセカンド内野手としてプレー。2000年春にシニアリーグ中学日本一になりました。

しかし、土佐高校への進学が、現在まで学生野球を続けて来られた原動力であったと思います。当時「横浜高校で甲子園優勝して・・・」という夢を持っていた愚息を、私は半年かけて、あの手この手と説得を重ね、中学3年生の12月にとうとう母校、土佐高校への進学を希望させることに成功しました。この説得の最中には私の恩師で、のちに愚息も卒業まで3年間大変お世話になった小島哲雄先生(今春3月ご退職)の温かい

励ましがありました。無事、母校の入学試験をパスしたのち、直ちに目指すは、多数の野球部先輩方が活躍された慶應大学での東京六大学野球でした。『明確な目標を持って、やるべきことをコツコツとやり抜けば、結果は自然とついて来る』を正しく実践した愚息の3年間で、土佐高校での野球と学業の両

母校だより

学校長 池上武雄(28回生)

皆様にはお変わりなくご清勝のこととお慶び申しあげます。いつも母校に熱い思いを寄せていただき格別のご支援を賜っており、誠に心から感謝申し上げます。

◇大学入試結果について

本年卒業の82回生は、昨年秋季の履修漏れ問題の逆境をお互いに励まし合つて見事に克服し大輪の華を咲かせてくれました。現役合格率は79.9%(昨年65.0%)と目ざましい躍進を遂げました。

かねてより申しあげて参りました、東大、京大各2桁合格の目標も、東大11名(現役7名)京大12名(現役8名)と実現してくれました。ちなみに難関10大学(旧帝大7校、東工、一橋、神戸)でも捲土重来を期した浪人生の頑張りもあって63名(昨年54名)、また国公立医学部医学科は24名(昨年15名)と躍進振りをご報告できることを大変うれしく存じます。後に続く83回生も大変意欲的な進学希望を持っており、今後は更に難関大にチャレンジする層を厚くし



立を経て、親子の目標であった慶大進学を果たし、とうとう学生野球のメッカとも呼ばれる神宮球場での東京六大学野球への道が開かれたのです。大学生活4年目を迎えた今、既に無事就職も内定し、最後の春・秋季リーグ戦を愉しむ愚息のユニフォーム姿を、バックネット裏で諸先輩方の友情応援を頂きながら観戦出来ることは本当に幸せです。この3年間、自称「英太郎を勝手に応援する会」の会長、宮川 洋治さんと同会員番号28番の川村 愿さん、そして毎試合、欠かさず神宮のバックネット裏2階席で静かに見守つて下さっている岡田 四郎さん(38回生)、ほか慶大野球部OBのお仲間たちと共にいつも神宮で応援して下さいる上田(アゲタ) 宗一郎さん(34回生)他の方々に心より感謝申し上げます。そして半年先には「子離れ」をどうやってやらええか、思案中の今日この頃です。

てゆきたいものと願っております。

◇新校舎建築プロジェクトについて

校舎新築に向けての作業手順も先生方のご協力を得てハドスケジュールながらも順調に進められております。

本年2月8日基本設計が完了、実施設計段階へと進むと同時に、4月2日工事発注方式として「施工者の公募」を発表しました(学校ホームページに掲載済)。4月11日締切にはそれぞれ数社の元請施工者ならびにコストオン方式の施工者応募がありました。5月下旬現在三菱地所設計様(CMR)、安井・西森設計JV様と共に綿密に応募内容を点検して、遅くとも6月中旬には施工者の決定、7月末工事着工までもってゆきたい考えです。

また、大変有難いことですが、3月高知県議会会で約7億円の補助金予算をご決定いただき、校舎完成年度から3年間に分割して支給されることとなり感謝に堪えないところであります。

◇新校舎建築募金活動について

岡内紀雄委員長(34回生)

を先頭に、新校舎募金委員会を中心として募金活動(目標額4億円、期間5カ年)が4月1日よりスタートしました。

同窓生のお手元には募金のお願い関係のパンフレット一式が届いていることと思います。

また各地での支部総会等を通して募金委員の皆様方が手分けをしてお願いに参上しておりますので、何とぞご協力の程お願い申し上げます。

ちなみに募金活動の出足も順調で、5月30日現在応募下さった個人613件、企業・団体19件、合計金額39、471、968円が寄せられております(学校ホームページに、随時募金状況や新校舎関係の最新状況を掲載しております)。

◇平成19年度県体の結果について

5月19日から3日間開催(除く水泳)された県体は県下51校、5809名が参加、好天に恵まれ熱戦をくりひろげました。本校からの出場者は、306名(水泳を加えますと314名)(男子207名、女子99名)と最多人員で、次は体育科を持つ岡豊高校288名でした。優勝は、テニス女子団体、女子ダブルス、

シングルス、バドミントン男子団体、ダブルス、登山男子(4連覇)柔道男子90キログラム級、陸上男子1600m

リレー、陸上女子400m、800m、2位には空手女子形、組手、陸上女子400mハードル、3位にはテニス男子団体、ハンドボール男子、ハンドボール女子、バドミントン女子団体、陸上女子1600mリレー、陸上男子400mリレー等で、女子の活躍が目立って参りましたこともうれしいことです。

6月中旬からの四国大会、7月28日からの佐賀インターハイでの活躍を期待しております。

◇立命館総長川口清史先生(39回生)の講演会について

4月16日「この時代きみたちはどう生きるか」と題して本校講堂で特別講演をいただきました。中3生、高校生全員(1167名)を前にして、ご自身の土佐高校での新聞部や生徒会における活動の体験談にも触れられながら、高校

大学生生活を振り返り、またその後の教育者、研究者として進まれた道やその指針となった事柄など貴重なご示唆を頂戴しました。

暑さに向う折柄皆様のご健

勝、ご活躍を祈念申しあげ報告とさせていただきます。(平成19年5月末)

本部だよ

事務局 千頭 裕(58回生)

学校の事務局、同窓会の本部会計、そして新校舎建築募金委員会の事務局を担当させて頂いておられます。58回の千頭と申します。「募金のお願いを送付させて頂いてから1ヶ月半がたちました。5月28日現在で539件、32、177、000円ものご寄付を頂きました。ご芳名は土佐中・高HP、同窓会本部HP、関東支部HPにて随時掲載させて頂いております。本当に有難うございます。

この募金活動は、お金を集める活動ではありませんが、何よりも「ここをあつめる活動」であるということを目々思いながら、事務局としての仕事をさせて頂いております。

2005年の同窓会の名簿づくりの他にも多くの皆さまのお力をいただいております。感謝したことでしたが、今回も感激す

るようなことが既に多々ありました。卒業回数にゴロを合わせた金額のご寄付や新卒者の保護者の方からのご寄付、そしてご遺族の方からのご寄付のお申し出、匿名希望や分割で計画的にお振り込みのお申し込みをいただいたり、保護者の方がご兄弟のそれぞれでのお名前でご寄付をいただいたりと、母校への本当にひとりひとりの思いを現場で最初に実感させて頂いた。貴重な経験をさせて頂いてくださることは、ありがたいことだと感じております。

また、同窓会からの名簿調査等のご返事を一度もいただいていない方もこの募金のお願いは、早速にお振り込みして下さる方が本当に沢山いらっしゃるという事は、母校や同窓会活動を本当に支えて下さっているのだなということを感じます。

そんなことから、年に何回か発送させていただく14800通あまり(年々増えていきますが)の発送作業を行っていただくの大事な意味を感じております。この発送作業には、今回募金委員会の作業委員会の長を務める47回生・本部副会長の北村恵美子

の活躍を祈念申しあげ報告とさせていただきます。

さん率いる「チーム北村」(ちまたでは軍団・北村とも呼ばれています)が中心になってやって下さっています。メンバーには、同窓OBOGはもとより、現役土佐校生の保護者(振興会)や、保護者のOBOGが沢山いらっしやっ、ものすごい「はちきんパワー」を発揮され、以前は1週間かかっていた発送作業が今回の募金案内は、たった2日半で完了しました。もう、完全にプロ化していると言っても過言ではないでしょう。

さて、新校舎は予定ではこの夏から工事に入ります。今年の同窓会総会は8月12日(日)を予定しておりますが、昭和47年に高3だった47回生以降の卒業生にとりましては、現校舎の見納めとなりますので是非ともご参加下さって、隅々まで散策し、思い出に浸り、皆様の原宿となる「校舎」とのお別れをして頂きたいと思えます。

なお、最後になりましたが、法人対象の寄付の扱いには税金面で優遇される処置もございますので、お知らせの会社等ご紹介をいただければ、ご案内をさせていただきますので、何卒よろしくお願いたしします。

校歌にあるように、協力一致誓いして集ふ同胞意気強し・・・、何卒皆さまのお力をお貸しください。

北海道支部だより

支部長 池川昌弘(39回生)

北海道支部の生みの親とも言うべき窪田前幹事長(38回生)が突然高知に帰られる事になり、北海道支部長をお引き受けいただくことができなくなりました。このため急遽、田原前支部長(37回生)の後を引き継ぐことになりました。北海道大学の池川(39回生)です。30年弱勤務しました日立製作所を6年前に退職し、家内(39回生、旧姓山崎)とともに北海道にやってきました。家内は、「冬になると身体のあちこちが痛くなる」とこぼしていますが、私の方は冬の寒さにも慣れ、冬はスキー、夏は山登りとゴルフで、現在はすつかり「北海道大好き人間」になっています。

北海道支部は2年ほど前に設立され、会員数60名ほどの小さな支部ですが、これまで

の支部長、幹事長、幹事、事務局の方々のご尽力により、暖かい雰囲気支部運営がなされており、北の大地にしつかりと根を下ろした活動を続けています。今年は、7月14日(土)に支部総会を開催する予定で、準備を進めております。ご承知のように北海道は国土の5分の1を占め、6つの国立公園を有する自然豊かな広大な大地が魅力ですが、人口はわずか580万人でその約3分の1が札幌市に集中しています。もうすぐ毎年恒例の「よさこいソーラン祭り」も始まり、札幌の街は本場顔負けの若者の熱気と鳴子の音にむせ返ります。

また、道北の北見市は高知市と姉妹都市(土佐の北光社

移民団の入植と屯田兵により開拓が開始されたことを記念して)であるなど、高知とは結構縁の深い北海道ですが、数年前に直行便が廃止になり、行き来するには多少不便な状況になっています。でも東京とは、1日50便以上の太いパイプで結ばれていますので、夏、冬を問わず北海道にお出で頂き、すばらしい自然を楽しみむとともに、北海道支部会員と旧交を温めるのは如何でしょうか? 普段は遠く離れていて音信不通でも、一旦会えばすぐに昔に戻り楽しく語り合えるのは、なんと言っても高校時代の友人です。

ふるさと高知との往来はもとより、他の支部との交流を深め、土佐校パワーの輪を広げていければと念じております。私事で恐縮ですが、昨年5月には39回生同窓生有志が北海道旅行で札幌に立ち寄って下さり、数年ぶりの再会に時の経つのを忘れ、昔話に花を咲かせました。

末尾になりましたが、本年度の支部役員をご紹介します。

幹事長 和田(44回生)
幹事 弘光(31回生)
田原(37回生)
武田(38回生)

東海支部だより

幹事長 村山文世(41回生)

関東支部の皆様こんにちは。東海地方は万博以降も好景気は続き、今や日本の元気はナゴヤから! というような感じですが、新幹線で名古屋駅を通り過ぎる方はお気づきになられたかもしれませんが、超高层ビルのJ.Rセントラルタワーズ、ミッドランドスクエア、モード学園スパイラルタワーズが次々に空に向かって伸び、さらには近くの納屋橋地区のアクアタウン納屋橋、納屋橋ルネサンスタワーの計画も具体化して、昔の通過駅の寂しい面影はありません。発展する原因はトヨタの求心力もとに、東海道新幹線、名鉄で中部国際空港まで28分、高速道路網等充実した交通インフ

森木(41回生)
先川(45回生)
服部(49回生)
山本(53回生)
石川(68回生)
事務局 島村(49回生)

私以外は、皆なヴェテランの方々ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。



ラも見逃せません。長年東海支部がお借りしている南顧問のコスモホームのオフィスも、今年3月に伏見の御園座近くの東洋ビル3階に移転しました。今度はぜひ一度下車されて、名古屋駅近辺をお楽しみください。

スポーツ界でもプロ野球中日ドラゴンズは、出足は良かったけれどジャイアンツに首位を奪われてまだまだ本調子ではありませんが、例年通りに展開すれば、まもなくジャイアンツに替わって指定席に着くことでしょう。サッカーでは名古屋グランパスが今年是一段とレベルアップ、女子フィギュアスケートでは愛知の3姫の大活躍、センバツは東海地区の決勝対決と中部スポーツ界は大賑わいです。

さて、母校向陽グラウンドの開所式は、同窓生ならびに土佐高校の皆様のご尽力により3月18日に慶応高校を招待し快晴のもと盛大に行われました。夢の甲子園に向けてスタートした高多監督以下現役諸君のはつらつとした全力疾走のプレーを開東支部市川幹事長、鶴和副幹事長はじめ多くの会員のかたがたと共に心強く観戦応援しました。



5月19日に東海支部総会が開催されました

5月19日にキャッスル・プラザホテルで開催した東海支部総会では池上校長から、新校舎建築、未履修の問題で大きな困難があったにもかかわらず大学入試で過去30年間で最高の結果をおさめたこと等の報告があり一堂おおいに元気づけられました。開東支部からは泉谷支部長に出席して頂きありがとうございました。高校の未履修問題、野球の待制度等含蓄のあるコメントと開東支部の活発な活動をお伺いし、羨ましくも元気を頂きました。

東海支部も相変わらず少人数ではありますが、ナゴヤの元気をそのままに支部会員一同がんばっています。新年早々、

久保地支部長はパリダカに飛び、トヨタ車体の会社員らで構成する「チームランドクルーザー・トヨタボディ(TLC)」を陣頭指揮で応援、トヨタランドクルーザー100を駆って市販車無改造部門で史上初の3連覇を達成しその元気な姿はテレビや新聞に登場しました。その他支部会員一同頑張っています。

新校舎建築募金に東海支部会員も熱き支援を行い、併せて甲子園のセンターポールに上がる校旗を眺めて向陽の空を歌える日が来ることを夢見しております。最後に開東支部の皆様のご健康と益々のご発展をお祈りして東海支部便りとさせていただきます。

関西支部だより

丹波竜(学名なし)
幹事 片山保行(49回)

開東支部の皆様、こんにちは。関西支部幹事、兵庫県尼崎市在住49回片山です。昨年の野球留学話に懲りず連年の投稿で失礼いたします。

みなさんは「丹波」という地名をご存知ですか？京都府中部から兵庫県中部にかけて

「丹波」を冠する地名が目につきます。ふるさと高知県西部にやたらと「四万十」が多いのに似ています。マツタケ、タケノコで有名な京丹波市、黒豆やデカンショ祭り、篠山マラソンで有名な兵庫県篠山市周辺は丹波地方と呼ばれています。昨年新たに、篠山市の西隣りの水上(ひかみ)郡6町が合併し、丹波ばかりで紛らわしいのではないかとという物議を醸した末、「丹波市」が誕生しました。兵庫県といえば、イコール神戸という都会的なイメージがあるかもしれませんが、「丹波市」の人口は約7万、人間の数より鹿やイノシシの数の方が多いのではないかと思われるくらい

のどかな地域です。

そんな過疎の山里が、今、恐竜ブームに沸きかえっています。2006年8月、丹波市山南町(さんなんちょう)で国内最大級の大型草食恐竜「ティタノサウルス」とみられる化石が発掘されたのです。分類は竜盤目、竜脚亜目、竜脚下目、ティタノサウルス科。発見されたのは、約1億4千万年前の白亜紀前期の地層・篠山層群とのこと。なんのことやらさっぱりわかりま

せんが、要するに、ネス湖のネットシーのような体型で全長20メートルくらいのもんでもないヤツらしいです。もとも、これまでに確認されたのはシッポと背骨の一部分だけらしいですが・・・

「これを地域起こしの起爆剤にしない手はない。」丹波市は、恐竜の愛称「丹波竜」の登録商標出願を済ませ、今年4月1日には「恐竜を活かした町づくり課」を発足させ、5月1日からは「恐竜化石保護条例」を施行しました。こうなれば、そこは商魂たくましい関西のこと、地元のお店主たちが指をくわえて静観しているわけがない。発見場所すぐ近くの溪谷沿いに、「川代(かわしろ)公園」という桜の名所があるのですが、この茶店には、発見2週間後に「恐竜うどん」がメニューに加わりました。草食恐竜が食べたと言われる杉の葉を練りこんだ緑色したうどんです。先日、仕事の途中で丹波市北部を横断する「北近畿農道」の水上サービスエリアに立ち寄ったのですが、「丹波竜うどん」「丹波竜ラーメン」が土産物店に並んでいました。(ちなみに2食パックで75

0円)他にも、あるわ、あるわ・・・恐竜クンTシャツにキヤップ。キーホルダーやバッグ類。恐竜の卵をイメー
 ジした饅頭まで。そのうち、「丹波の山奥で20mもある恐竜に追いかかれた！」などという人が現れるかもしれませ
 せん。丹波市までは大阪から車で約2時間。JRだと福知山線
 で1時間半ぐらいです。みなさん
 もぜひ兵庫県丹波市に足を運んで、古代ロマンの夢を膨らませてみてはいかが
 でしょうか。

広島支部だより

会計幹事 小島 康 (37回生)

風薫る爽やかな季節を迎え、故郷のカツオのたたきが恋しい今日此の頃でございますが、関東支部の皆様、それぞれに御活躍のこととお慶び申し上げます。

故郷と言えば、2007ひろしまフラワーフェスティバルが5月3日から平和記念公園と平和大通りをメイン会場に三日間の日程で開幕し、今年も又青空の下、鳴子の音が響き渡りました。「折り鶴みこし」の50基が子ども達の肩



総会準備をする。左、筆者、右、山崎事務局長

に乗り、千羽鶴の如く平和大通りを舞い、400年の節目を迎えた朝鮮通信使船を再現した花車が日韓合同パレードし、国際色を一段と高めました。又NHK紅白歌合戦で歌われた「千の風になつて」をスペシャルゲストのテノール歌手秋川雅史さんが熱唱し、聴衆の心を揺さぶりました。青筋立ててアニメのテーマソングをがなりたてている孫がテレビでそれを見て、正調唱歌に関心を示し、近々来広するウィーン少年合唱団の広島公演に行きたいと申し出たほどです。

さて、ここで平成18年11月25日に開催されました広島支部総会のご報告をさせていただきます。支部議事↓講演↓集合写真撮影↓懇親会↓二次

会、これが当支部総会のスタイルです。30数名の出席者数に毎年大きな変動はなく、その動員が役員の大きな課題ではあります。少人数ならではの和気藹々とした会の雰囲気、広島支部の持ち味であることも否めません。

講演会の講師は41回生の筒井康賢様。「ものづくり技術の最前線」と題してすばらしい講演をしていただきました。形あるものは真似られる、模倣されない独自の技術を開発しなければならぬと言うおはなしに、国際間の競争の凄まじさを感じました。

翌日は東海支部の女性軍を錦秋の宮島にご案内し、日本三景のひとつ安芸の宮島の美しさ、奥行きを味わっていただきました。総会の翌日は御来賓のご希望あれば、観光のご案内をさせていただきます。今年に入り、1月25日の本部での第1回募金委員会に筆者出席。2月に広島支部募金委員会を持ち、3月に沖支部長名で寄付金募集の全面的協力要請の文書を全会員に発送致しました。

「協力一致誓いで・・・」と校歌にもあるように、母校



講演会講師の筒井康賢氏 (41回) と

の校舎新築に伴う募金活動はお金を集める仕事ではありませんが、同窓生の心をひとつに集める仕事でもあります。同窓会各支部が如何にして意義ある協力をするのか大きな課題が与えられました。今年度の広島支部総会は11月10日の予定です。皆様ぜひおでかけくださいませ。

香川支部だより

香川支部のこのころ

幹事 大黒英男 (46回生)

皆さん、こんにちは。お元気でいらっしやいますか。私達香川支部の面々は、それぞれの流儀で暮らしていますが、メンバーの近況について、幾つかの出来事をお知らせいた

します。大変残念なお話からしなればなりません。香川支部の幹事長を務められていた、中澤正良先輩 (38回 NTTドコモ四国 代表取締役社長) が平成18年12月7日ご逝去されました。誠に哀悼の念に耐えませぬ。先輩は四国経済界の要職にあると共に、第一回高松国際ピアノコンクールを成功させたほか、四国の文化活動の興隆に尽力され、本年1月29日に執り行われた「お別れ会」には、故人の遺徳を偲ぶ人が日本中からはもとより、遠くヨーロッパからも訪れ、その数は二千人を超えました。心からご冥福をお祈りいたします。

広田昭夫さん (56回) は香川県立高松東高校で野球部監督をされています。広田さんは土佐高の野球部で活躍し、香川大学でも野球を続け、母校の野球部で後進の指導にあたっておられました。折りしも、土佐高野球部の全力疾走をグラウンドで見た当時の高松東高校校長が「本校野球部に欠けているのは、これだ！」と感じ、母校を通じて招聘したそうです。残念ながら、戦績は芳しくありませんが、私

は

第三の建学の参加で喜び

溝渕真清 (32回生)

の職場にいた高松東高野球部OBに尋ねると、「グラウンドへ行くと、OBの姿を見つけた選手が、遠くに居ても帽子を取って挨拶するようになつた。今までとは大違いだ。」

と言っていました。選手達は、たとえ甲子園に出ることがなかったとしても、満足度の高い職業人へのスタートを切れることを予感させてくれます。

母校の力が、香川県の若者を導いている事実は本当に嬉しいものです。これからも、広田さんを応援していきます。

話は変わりますが、「さぬきうどん」は皆さんご存知だと思いますが、昨年「UDON」という映画が公開され、一時は落ち着いていた関西からバスを仕立てての「うどんツアー」を、また見かけるようになりまし。加えて、来年には「シルクロードは麵ロード」と銘打ち、「世界麵フェスタ」が開催されるとのことです。

シルクロードの国々から職人さんが来て、それぞれの麵の製作を実演しながら提供するイベントもあるようです。麵のお好きな方は、来てみませんか。ご一報いただけます。是非、お立ち寄りください。

私は今年68歳になりました。日本人の「平均寿命」から見れば、あと10年、「平均余命」からは16年、体調を気にすることなく、元気に日々を楽しむのできる「健康寿命」の平均では、あと7年間の「執行猶予」という時点にいます。にもかかわらず、自分に、間もなく訪れる「老いの疾病」、「死」、家族や仲間たちとの「別れ」という厳粛な事実を深く受け止めることなく、漠然かつ口先の覚悟だけで日々を過ごしています。幸いなことに、今、私は人生で最も穏やかな豊かな時期を楽しんでいます。

II 嬉しい宝物、生き方の根っこ II

激しくも、厳しくもあつた波乱の60余年ではあつたけれど、幼児期、少年期、青年期、成年期を力一杯に生き、懐かしい記憶を数多くもてたことは私の人生の「宝」であり、「豊かさ」の原点となつており、ありがたいことと思つています。

その記憶のひとつに、初々しくも、生意気盛りでもあつたに違いない「土佐中学、土佐高校」の時代があります。特別に褒められたこともなく、憧れはあつても「恋」などもなく、希望と小さな挫折、子供でもなく、大人にもなりきれず、鮮明でもあり、霧にかかったようでもあり、ほのかに明るく、懐かしくなる、まさに思春期の日々でした。

今でも胸が熱くなるセピア色の映像は中学入学の時、母親が丁寧に、丁寧に、縫いつけてくれた学生服の袖の「白線」であり、忘れることはありません。あの時の誇らしさ、輝かしさ、そして、自信、それを両親、家族と共有できたことが私の生涯にとって大切な、大きな「根っこ」の事実」となり、6年間で心に刷り込まれた知識、体験と共に、私のアイデンティティの核となつたことは間違いないです。それは知的好奇心の「種」であつたり、経営の世界での理想、志を掲げることが自分自身の心のエネルギー源になること、学び続けることが時代の変化に対応できる唯一の方法であること、確信したこと、など。

「感謝」「忍耐」、「継続」を臍下に置いて頑張り抜けたのも「中高時代」に刷り込んだ「男(っ)のプライド」や「心の強さ」であつたように思ふのです。人間形成の基礎が作られる時期はまさに中学校の時代であるのに、当事者本人はその重大さに気が付かず迷い道してしまいます。私などは子育てを終え、現役を引退してから気がつき、しみじみと思ふのです。



II リーダーは大変 II

今、日本が迎えようとしている高度成熟社会は文化、情報、価値観のボーダーレス社会であり、学問、ビジネス、政治も世界を視野に入れてのパフォーマンスが可能になります。素晴らしいもあり、厳しい能力と緊張を要求される社会でもあります。次の時代のリーダーであることを期待される「土佐」の後輩たちには高度な知的能力、知的センスだけでなく、精神のしなやかさ、強靱性、感性、健康力が必要でしょう。まさに「右文左武」「文武両道」そのものです。

II 第三の建学ということ II

私は創学者たちの理想、熱き思い、ご苦心を知りません。焼け野原から敢然と立ち上がり、古材を貰い受け、汗と涙で建ち上げた仮校舎のことなど先人達の必死の努力も側聞すれば、その息吹をイメージして感じ入るばかりです。しかし、私自身は何のお手伝いもしたわけでもなく、何となく間をおいた「土佐の同窓生」でした。

今回の母校の新校舎建設の大事業に際しては、今日までの思いもあり、自分自身のアイデンティティのために、そして、何よりも感謝をこめて、参加したいと思つています。この大プロジェクトを「第三の建学」と位置づけて考えました。

生徒たちが興味を広げ、好奇心をかきたて、現場の教師たちが存分にその能力を発揮できる場を、よろこびと誇りの人格形成を体得するステージづくりを手伝いたいと思います。そして、OBにとつて、ちよつぱり自慢のできる「土佐」であり続けて欲しいことも願ひながら。

II 「輝いて未来へ」の夢 II

関東支部の諸兄にはお一人お一人が今回の「第三の建学」の意味に賛同いただき、新校舎建設の大事業に参加して頂きたいのです。若い後輩たちの可能性「輝いて未来へ」の夢を一緒に見ませんか。具体的に「身銭を切る」寄付(表現は悪いのかも知れませんが)によって、私達にとって「土佐中学」「土佐高校」は今までより、もっと懐かしく、いとおしく、嬉しい存在になるはず。ちよつとだけ、良いことしませんか?そして、私たちが「輝いて未来へ」。よろしく願ひします。

岡崎のおんちゃんのおい出話(三)

23回生 岡崎昌生



フエニキア

「鵬程万里果ても無き
太平洋の岸の辺に・・・」
に始まる高知商業の歌声も久
しく甲子園で聞かれないが、
二番の歌詞に

「天に聳ゆる喬木を
レバノン山の杜に切り
船を造りて乗り出せし
フエニキア人のそのこと」
というのが続いていた。この
フエニキアが現在のレバノン、
シリア地方である。

古代(紀元前)、メソポタ
ミア文明の影響もあり相当の
繁栄を享受していたという。
航海術にすぐれ、地中海貿易
に活躍していたが、その中心
は現在も同名で残るトリポリ、
サイダ(シドンともいう)、
ティールなどのフエニキア都
市国家であった。

また、地中海を西に進み、
カルタゴ(現在のチュニジア
地方)に植民都市を建設し、
さらに大西洋方面まで制覇し
たという。学校の歴史の時間
で習ったローマとのポエニ戦
争で活躍したハンニバル將軍
もまたフエニキア人であった。
明治四〇年ごろ作られた市
商の校歌はフエニキア人のよ
うに海外雄飛をと生徒の士氣
を鼓舞したものである。

レバノン今昔

フエニキアの名はいつの間
にか使われなくなり、紀元前
後にローマ帝国(のち東ロー

マ)の領地などを経て、七・
八世紀ごろイスラム勢力が伸
張してきた。
十六世紀にスレイマン大帝
のオスマントルコの版図に組
み入れられたが、第一次世界
大戦後の国際聯盟によりフラ
ンスの委任統治領となり、第
二次大戦中の一九四三年レバ
ノン共和国として独立した。
住民は、ほとんどがアラブ
系であるが、宗教はマロン派
キリスト教徒(東方正教のカ
トリック)とイスラム教徒が
ほぼ同数、大統領はキリスト
教から首相は後者から選ぶな
ど両者の共存がはかられ、独

レバノン

立から一九七〇年までは多少
の紛争はあったものの平穏が
保たれ、中東の中心として生
き生きとした都市であった。
しかし、一九七〇年代に入
り、パレスチナ難民の流入、
さらにはアラファトさんのP
LO(パレスチナ開放機関)
の移り住みなどにより、イス
ラエルの攻撃の激化、内戦の
勃発のため、平和な美しい街
は破壊され、危険極まりない
ところとなり、各国の銀行、
商社などは逃げだし、ペルシャ
湾岸のバハレーンに新しい中
心を求め、移っていった。

以後三〇年あまり、当地は
時々の休戦協定などが結ばれ

るものの戦火は続き、特に昨
年来、ヒズボラ(イスラムの
武装勢力)とイスラエルの戦
いは日本のテレビ、新聞でも
その惨状が報道されている。
根源的にはイスラエル、パ
レスチナ問題、イラン、イラ
クなどへの大国の思惑なども
からまり、残念ながら、中東
の騒乱は当面続くであろう。
ペイルートでのこと

●ルーレットで儲けた
ある夜、友人たちとカジノ
に行ったが、私は麻雀以外バ
クチはやらないのでバーで飲
んでいたところ、ここに来て
一度はやれと誘われた。
チップをもらって、かけて
みるも最初から当たりが続き
相当の量となった。そのうち
ワーワーという声があるので
後をみると西洋人のオバサン
たちが、大ツキの東洋人をみ
て騒いでいるところ、まもな
く当たらなくなった。

交換してみると二五〇ドル
ばかり(当時一ドル三六〇円、
約九万円)のポロモウケ。翌
日友人たちとビール、ワイン
付きの豪華なランチを楽しん
だ。

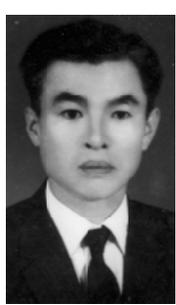
●海辺での酒
ペイルートから南へイスラ
エル方向の道を一時間ばかり
走ったところにサイダという
町がある。
その海辺のレストランで、
地中海に落ちる夕日を眺めな

がら、魚のバター焼きでウイ
スキーを飲んだ、酸素のうすい
アフリカの高原から下りてき
た者にとってシレーベルの空
気、酒は一入であった。

このサイダもイスラエルの
攻撃でメチャクチャになった
という。

●モーニングコール
用事も終り、明日は帰ると
いう日、ホテルのバーで飲み、
フロントに朝起してくれと頼
んだ。

朝七時すぎ、約束どおりモー
ニングコールがあった。しか
し、それは「先ほどイスラエ
ルの空軍機が駐機中のアラブ
軍機に機銃掃射、このため今
日は空港閉鎖とのこと。」
いかに時間をつぶすか。ま
ずホテル地下の散髪屋(イタ
リア人)に行った。「ずい分
白髪がある、時間があれば染
めないか」という。こちらも
時間をもてあましていたので、
OKといった。その結果が写
真のとおり、頭のみならず眉
毛までもが漆黒となつてしまっ
た。早速、帰国(アフリカへ)
したとき、あまりにもパスポ
ートと異つているので、入管で
尋問された。以後、髪洗いに
精を出したが、原状に復する
まで何か月か要した。



ふるさとへの手紙 (九) 田所 真奈 (77回生)

「久しぶり、元気しよつたかえく?」「どうなが?最近忙しいが?」今日も東京のちよつとオシャレなダイニングバーで土佐弁が響きます。普段は職場や大学の仲間と共通語で話す私達も、土佐高の友人(通称・土佐っ子)と会った時はどこでも土佐弁です。盛り上がりすぎて、声が大きくなってしまふこともしばしばです。

土佐高を卒業して、早5年が経ちました。社会人として働いている者、大学院で勉強を続けている者、進路は様々ですが、一度集えば土佐高話に花が咲きます。高2の運動



関東支部総会で77回生の世話役仲間と。前列左から2番目筆者。

会でのホームゲーム、高2の向陽祭での模擬店、高3の運動会でのやぐらや応援団、そして、日々の思い出話は尽きません。お弁当を食べた後お昼休みに教室で他愛もない話をしたこと、毎日のように放課後夢や悩みを語ったことが懐かしく思い出されます。

私にとつて、今年土佐高卒業生として特別な年になりました。例年行われている関東支部同窓会ですが、2007年の今年は卒業回数下一桁が7である、私達7の回が世話役学年となったからです。

しかも、今年は今までと趣向を変え、「手作り&エコ」をコンセプトに、世話役が企画だけでなく当日のおもてなしも行うというものでした。そのため、当日世話役の人手が多くなり必要とされていました。

当初より企画打ち合わせに参加していた私は、同期の仲間が協力してくれるかどうか不安を感じていました。しかし、一度声をかけると「手伝うで」と数々の返信があり、土佐高生の結束の固さを実感することができました。

そして、久しぶりに会つて



新宿で土佐高の友人達と。中央筆者

も、それを感じさせないほど自然に話せる、それが土佐高生ならではの良さだと思えました。企画段階では、恐れ多くも諸先輩方に交じり、何とか付いていくのが精一杯でしたが、若手の意見も取り入れて下さり、皆で同窓会を作り上げているのだと感じることができました。当日は、準備や後片付けで大変な部分もありましたが、何よりも来て下さった方々に喜んでいただけましたということ、そして、自身も心から楽しむことができたということが嬉しかった。土佐高OBはもちろんのこと、土佐高以外の方々のご協力があつてこそ成功した同窓会だと思つています。「人と人の

つながり」を改めて実感し、感謝した同窓会でした。

現在は民間企業の財務部門で、社会人2年目として働いています。日々実感することとは、「会社はいろいろな考えの人が集まっています、お互いに関わり合つて仕事をしているということ」、「自分の仕事に全力投球することによってその後の信頼関係につながるということ」、「受け身だけでなく、自ら発信していく姿勢でコミュニケーションを図ることがいかに大切かということ」です。これらについては、自主性を重んじる土佐高時代に、「理系・文系にこだわらないクラス分けにより、様々なタイプの友人ができたこと」、「常にメリハリをつけて、勉強と学校行事の両方に全力を注いで取り組んだこと」、「何事も生徒が中心となり、自ら考えて行動する力がついたこと」がとても役立っていると思います。

これからの「報恩感謝」の土佐高精神を忘れず、周囲の支えに感謝し、周囲に対して思いやりをもち続けたいと思つています。そして、その感謝の気持ちや思いやりを行動に表せる人になりたいと思つています。

つながり」を改めて実感し、感謝した同窓会でした。

少時11名、平均19名です。参加者の年齢は50歳から84歳くらいで、平均65歳です。平均グロスは、100打、平均ネットは82打で、多くのコンペと同じ程度です。

ベストグロスは第52回で梅原毅(45回)の74打、平均グロスのベストは小松建紀氏(33回)で21ラウンドの平均88打。優勝者の平均的な姿は56歳、グロス91、HDCP19、ネット72打。最年長優勝記録は、第11回の北岡龍海氏(5回)、第48回の山中和正氏(24回)の両氏で共に74歳での快挙でした。精勤賞は、宮川洋治氏(33回)で全52回のうち43回参加という実績を残しました。ホールインワン記録は、ただ一人永野博子さん(38回)が久能CCで達成しました。

筆山会ゴルフコンペ参加にはなんの制約もなく、ゴルフ好きをいつでも歓迎します。是非、次の歴史をあなたの手で刻んで頂きたいと、多くの方のご参加を心待ちにしております。

連絡先 〒236・0045
横浜市金沢区
釜利谷南2-2014

電話 045-782-6707

★出版リーダー★

倉橋由美子 (29回生)	「クリスマス・ラブ」新装版」	宝島社	レオ・ブスカリア文	2006.11	1,200円
鍋島高明 (30回生)	「日本相場師列伝」	日本経済新聞出版社		2006.11	750円
田島征三 (34回生)	「どんぐりと山猫」	三起商行		2006.10	1,575円
田島征彦(ゆきひこ) (34回生)	「ぼんくら」	童心社		2007.01	1,575円
野田正彰 (37回生)	「ごもに命の大切さを伝えむ」	関西学院大学出版会		2007.02	525円
塩田潮 (40回生)	「安倍晋三の力量」	平凡社		2006.12	777円
杉山雄一 (41回生)	「最新創薬学 2007」	メデイカルドゥ		2007.04	5,250円
高山宏 (42回生)	「ボデイ・クリティシズム」	パブリカ・M・スタフォード 著		2006.12	400円
坂東眞砂子 (51回生)	「鬼に喰われた女」	集英社		2006.10	1,365円
大森望 (54回生) 英係 未来	「文学賞メッタ斬り！リターンズ」	PARCO出版		2006/08	1,680円

「」からは雑誌に掲載されています

岡村甫 (32回生)	「公設民営大学の現状」	IDE		2007	488	48-50
田島征三 (34回生)	「長さんのごとば」	飛ぶ教室		2006	7	82-84
大橋一章 (36回生)	「アジア地域文化エッセイ研究センター」	日本歴史		2006	692	145-147
野田正彰 (37回生)	「2007 展望鼎談 私たちはどう生き どう闘うか」	金曜日		2007	15(1)	8-12
「フオラム まちめぐり 往復書簡」				2007	13	126-129
「年間3万人を超える自殺者への社会福祉のかかり」				2006	95	11-18
「戦後日本社会と中帰連」				2006	36	3-10
「2006 総括鼎談 「危険水域」に入った日本―「裸の資本主義」が格差を広げる」				2006	14(49)	8-12
塩田潮 (40回生)	「戦後憲法政治 短期決戦に方針変換：安倍首相の新戦略」			2007	6067	120-121
「戦後憲法政治 短期決戦に方針変換：安倍首相の新戦略」				2007	6060	108-109
「安倍政権と保守の系譜」				2007	696	2-45
「民主克白書―野党第一党の夢と壁」				2007	144	104-111
「民主克白書―野党第一党の夢と壁(1)小沢流の戦い」				2007	143	186-193
「戦後憲法政治史(第2回) 「実用的改憲論」を政権維持に活用した小泉首相」				2007	20(2)	36-40
「戦後憲法政治史(第1回) 安倍政権で憲法改正は実現できるのか」				2007	20(1)	58-62
「戦後憲法政治史(第2回) 「実用的改憲論」を政権維持に活用した小泉首相」				2006	6054	134-135
「戦後憲法政治史(第2回) 「実用的改憲論」を政権維持に活用した小泉首相」				2006	6049	144-145
「戦後憲法政治史(第2回) 「実用的改憲論」を政権維持に活用した小泉首相」				2006	6043	126-127
「戦後憲法政治史(第2回) 「実用的改憲論」を政権維持に活用した小泉首相」				2006	6037	108-109
「戦後憲法政治史(第2回) 「実用的改憲論」を政権維持に活用した小泉首相」				2006	229	1-10

高山宏 (42回生)	「三人閑談(パート)探訪」	三田評論		2006	1094	52-63
「「ぼくんと」と呼ばれた笑」				2006	38(7)	80-88
「「はそこ」に降りてー子供部屋の中の森に」				2006	6	26-29
大塚 寿昭 (43回生)	「情報セキュリティの現状と体系的・総合的対策ー情報セキュリティ・アーキテクチャ」	飛ぶ教室		2006	142	2-9
高岡 等 (49回生)	「うつ状態とうつ病診断の変遷」	Estrela		2006	125	61-64
坂東 眞砂子 (51回生)	「「子猫殺し」騒動その後：坂東眞砂子が本誌」	週刊朝日		2007	112(1)	178-179
森岡 正博 (52回生)	「米国の障害者運動の現在」	DPI		2006	22(2)	30-32
「「男ども」と男女共同参画」				2006	13	76-92
「無痛文明という病」				2006	12	16-21
門田 隆将 (53回生)	「書聞倶楽部、この本はこう読め 門田隆将『裁判官が日本を滅ぼす』著者と読む『裁判員制度は司法をどう変えるのか』」	Sapio		2006	18(14)	42-44
大森 望 (54回生)	「大森望のSF観光局(第3回)SFマガジン創刊とSFの時代」	SFマガジン		2007	48(3)	100-103
「大森望のSF観光局(第2回) 追憶の翻訳ファンタジー黄金時代」				2007	48(2)	166-169
「大森望のSF観光局(第1回) 短編集「チームの光と影」				2007	48(1)	208-211
「新人文学賞の最新事情と注目の若手作家10人」				2007	小説tripper	32-41



「相場師と土佐」

鍋島高明 (30回生)
 四六判 310頁
 本体価格 ¥1800
 07年6月 米穀新聞社 発行

投機を事業目的に掲げた最初の日本人は坂本龍馬である。日本初の商社亀山社中を旗揚げした時、龍馬は「開拓、運輸、投機、射利」の四本柱を押し立てた。コンプライアンス(法令遵守)がやまましり、射利は願ひ下げたいが、投機心漲る平成の龍馬はまだか。(帯より)